

依然として後退懸念が残る米国景気

ポイント① ISM製造業、受注や生産が減速

米国では、前月発表された4-6月期の実質GDP（国内総生産、速報値）が、2四半期連続のマイナス成長となったことで、景気後退の懸念が強まっています。その中で、今月1日に発表された7月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は52.8と、前月から0.2ポイント低下しました。新規受注や生産の減速などが同指数を押し下げ、製造業の活動にやや減速感が見られます。他方で、仕入れ価格を示す価格指数が60と、6月の78.5から大きく低下し、モノのインフレに鈍化の兆候が見られた反面、雇用指数は49.9と、6月から改善するも、引き続き労働力の不足が浮き彫りとなりました。

ポイント② ISM非製造業、仕入れ価格が減速

遅れて3日に発表された7月の米ISM非製造業景況感指数は56.7と、前月から1.4ポイント上昇しました。企業活動や新規受注が上昇した一方、仕入れ価格、入荷遅延がそれぞれ前月から7.8ポイント、4.1ポイント低下し、足元の原油価格の下落や供給制約の緩和が示された形となりました。ただ、飲食や不動産企業などからは、インフレや住宅ローン金利の上昇などで、客足の減速や契約キャンセルが増えているとの声もあり、サービス業の活動は拡大しつつあるものの、依然として物価高、そして急速な利上げが障壁となっている模様です。

ポイント③ 米景気の後退懸念が市場の重荷に

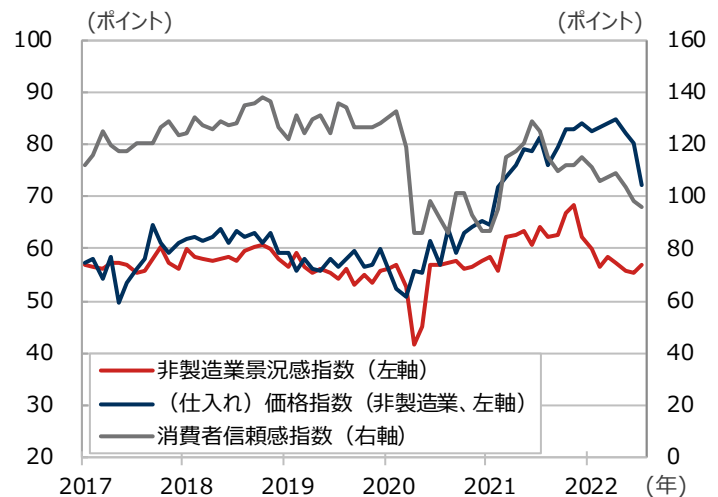
事実、7月の米消費者信頼感指数は、ガソリンと食品価格の上昇が消費者の購買意欲を低下させ、大きく下落しました。この点、足元ではインフレ鈍化の兆候が見えるものの、利上げに伴う需要低下はまだ見え始めたばかりであることを鑑みると、米景気の後退懸念は市場の重荷になると見えています。

米ISM製造業景況感指数の推移



期間：2017年1月～2022年7月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM非製造業景況感指数と米コンファレンスボード消費者信頼感指数の推移



期間：2017年1月～2022年7月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 8月5日 米雇用統計 (7月)
イベント 8月10日 米消費者物価指数 (7月)